

Doc. 15556

~~not used~~

# TOKYO GAZETTE

1555D

態度を改めうる欲せず百万天那事變の收結を切写し  
こうに諒解を便旗し佛印を賛成し帝國と泰國との親交玉劍  
かんがため策動致しがまなし才ほほち帝國と二れに南洋諸邦と  
の間に天榮の關係を増進せんとする自然的要本を阻害するに寧寧  
日行しての狀あたかも帝國を敵視し帝國に對する計畫的  
攻撃を實施し、あるものゝことく遂に無道にも經濟斯文の  
舉に出づるに到り小リ ふとて交戰關係にあらざる國家にいかげ  
る經濟斯文は武力にどう抗戦に比べキ敵對行為にてて自  
体黙過じ得ざるところとすしかし両國はこうに與國玉劍  
て帝國の四邊に武力を増強し帝國の存立に重大な影響成し  
こうにいたれり 帝國政府は太平洋の平和を維持しもつて  
全人類に戰禍の波及下るる防止せんことを顧念し該工の間く  
帝國の存立と東洋の安定とに對する賛成の激甚なるものある  
に拘らず隱忍心日食八ヶ月の久キにわたり米國との間に外交  
交渉を重ね來國しその背後にある英國などに二れに兩國に附和  
すの諸邦の反對をもとの帝國の生存と權威との許す限り互  
連の精神ともって事態の平衡解消につとめ盡くすべくと奮闘し  
がべキとはせんなり然るに本國は従うに不變の原則を弄し

2

1555 D.

「東亞の朝々日々の現實を認め、その物的勢力を惜みて  
帝國の眞の國力を憚う。す乎國とともに諸はに武力の貢獻を賛ん  
じて帝國を従じ得べしと方々かく下和的手段により米國不  
らびにアの乎國に對する關係を調整し相移へて太平洋の下和を維持  
せんとする希望とか余とは全く失ひれ東亞の安定と帝國の存立と  
は主に危殆に瀕せり事ハにハドつひに本國不並び乎國に對し  
宣戰の大詔は決済せんなり聖母天眷体して洵に鬼體威敵に  
堪へず。われら臣民一億餘石の國結をもって叛起勇強し國家  
の總力をおいて往來の年にしたがひもて東亞の船艦で永久に下人除  
し聖母に心へ奉るべとの所なり。惟六に世界万邦にて各  
この二三を得し大詔は炳として日宣の如く帝國が日滿英三國  
の提携により天災の責もあらず進んで東亞興隆の基礎を築かんと  
すがのうすはじより渝ることなほくまた帝國と心向を同じくする  
獨伊兩國と盟約して世界平和の基調を整し新秩序の建  
設に邁進すの次意ります。」中國たゞものあり。しかて  
今以テ帝國が前力諸地域にたいし新たに行動を起すやいと  
得ざるにハドる何うての住民にたいし飯碗を有するものに至らず  
天災の罹災と排除して東亞で明治本然の姿に復し相

3

D て大勢の軍を領して東へと進みます。幸運はこの軍の  
住民はやがて意を解し、中国とともに東亞の新天地に射たる  
命天子期玉を信じて戻ることとなり  
かくも皇國の隆盛は東亞の興廟はこの一舉にかかり、全国人民  
は今次征戰の勝利と後命とに深く想ひ、萬々も勝つことだ。  
主に心をこめて、嘗て御へて代官祖先の靈廟を日頃参りし  
難門に通ひ、必ず國家興隆の基を守らしめ、事の前から御々にうそ  
詮え、仰て御深謀を立て、豊國の謀を實にせんとして、  
征戰の目的を覺えじて、堅忍不撓にせんじ奉らんことを期  
せざるべからず

not used

TO THE GAZETTE

in the usual way + will be  
published in full page

# 大記を挙げ奉りて

東條内閣總理大臣放送

又今宣戰の御詔勅が済ませられました。精銳から西園  
陸海軍はまた決死の戦を行ひます。東西全局、  
平和はこれを熱願する帝國のあらゆる努力に反対します。  
遂に決戦のやふやきに至つたのであります。過般來政府  
はおこゆる手段を盡して對米國交渉の成立に努力を  
しておこりましたが、彼は從来の主張と一歩も譲らざる  
者で、かくして英蘭支と聯合して支那より我陸海  
軍の監修件全面撤兵、南京政府の否認、日、德、英、兩  
條約の相殺を要求し、帝國の方的譲歩を懇切に  
しておこしました。ついに對し帝國は、去くまで平和的  
な継続的努力を續けていたが、米國は何等反省の意  
を示さず、今日に至りました。そして帝國にして御辭令  
の宣達已轉じ得やうか此に于てつづけは中國の立場  
危殆に陥る上なる結果を以ておきます。事の起  
源には帝國は環下の尾局を打開し貿易の發

1555

16. 10

ぞ全うするため歴年として起ち上るやあそこには  
至るのであります。今日宣戰布告の大詔と稱して  
歎懐感激に堪へず。私不肖なりと云ひて身を捧  
げて決死報告。唯々宸禁を守り奉らんとの念願  
のみであります。國民諸君も又己の身と體共に醜の  
御舟たる光榮を同じくせらまさと信すより  
であります。凡て勝利の要訣は「必勝の信念」を  
堅持するのであります。建國二十六百年我が國は  
未だ一たて戦いに敗れぬことを知りませく。天頃の國  
觀之といふ少弾敵とも碎玉の難値に生れ  
立ちであります。我等は光輝ある祖國の歴史を守  
つゝ汚さずとどもに常に燃ゆる帝國の明日を建  
設せしにて固く誓ふ所をあります。顧かば我  
等は今まで常に自重とり最大限を盡めたので  
あります。断じて安きことをめざしてかく又敵の  
强大を憚れたりしてあります。いたゞく世界平  
和を維持と人類の尊権の防護とを顧念したる  
に外工半也。而も敵の挑戦を受けて祖國の生存

1555E  
Doc.

權威とが行きにはいさしては突然起きた事件であります。当面の敵は物語の豊臣秀吉とされています。これが世界の制覇朝と目されてゐるからです。この敵を粉碎し東亞不動の新秩序を実現せば世界には当然長期戦なることを懸念せねばなりません。これが同時に絶大の東洋的奴性を要求すると言ふと過言しません。かくて僕等は本くまで民族的勝利が祖国日本にあることを確信し木下とう吉原と僧十郎も支那へ進まなければなりません。これが昭和十五年我等に課せられた天皇より試験を受けた後にて太東亞満洲諸國との開拓事業と僕等に何が出来ておらず、ハサウエー、満洲國及び中華民國との一億人内閣係りと改められ、猶伊兩國との同盟約定／圖書を加へたるを飲食とする事であります。而して陰謀、東亞の隕滅までの戦に在り、舊の国民党が、これをあげて國に報い、國に殉するの時日本が、ハサウエー、金漢の下にこの中国の領土の開拓

4  
16

Doc. 15555E

ある限り、其末と雖も何等か御了承に足りか  
れあります。勝利は常に御威をもとにありとて人に歎か  
ざります。私は二つして微衰を抑壓  
國民と共に大革命無事の丹心を誓ふ次第で  
あります。

16.5

Doc. 1500

TOKYO GAZETTE.

第五編 第六号 昭和十六年十一月五日(新開)

縮刷版 昭和十六年十一月五日(二十六日) 漢文(面)

ヨリノ抜革

# 小 防共協定更に五年延長

55 情報局備考

昭和十二年十一月二十五日 日独兩國間締結せらるる共產イタリアニコサに對する協定すれどもいはゆる防共協定は翌昭和十二年十一月六日伊國を原の各國として加入した外西滿洲國、ハーガリ國、スペイン國の加入を見し如八ヶ國を撇てにいたりこの效果と發揮し未だに次第であるが五年の同協定有效期間は今回満了するに至りては勿論開港場における協議の結果本協定の效力をさへに五年延長する事に其見一致して十五日ペルソに於ては總理、滿洲國、西八ヶ國の全體の間に本協定效力延長に関する新議定書の調印を下した（支那イタリアニコサ即ちコミニテル）  
は國際的組織を有し世界各地に亘り其共產主義的權勢工作を行ひてゐることは總説下さりまく從つて既に防衛工作もまた國際的立場を取つてゐるが東西の新秩序確立と國家の基幹となる事にはます／＼防共が主事を謂ふ事であるが故に本件は後つて今回防共協定を更に五年に亘る事あるが新議定書は勿論に之づき主

ては支那を同一のうちの諸國家の協定に参加する様見せ  
に至る所には誠に慶祝に堪へる次第である。おほま  
に議定書の内容は次の通りである。

### 議定書

大日本帝国政府、ドイツ國政府、およびイタリア國  
政府およびハーカリエ國政府、滿洲國政府、  
およびスペイン國政府は共産をなすトシヨナルの議定書  
に對する防衛のため本諸國政府が締結したる協定の  
最も效果ありしこと認め、かつ本諸國の致せる利害を  
またさうに右共同の敵に對する緊密なる協力を  
要求すること確信し、該協定の有效期間を延長  
すること決し、本國船の爲めたる諸規定を協定せり。

第一條 一千九百三十六年十一月十五日の協定および附  
属の議定書があらかじめ一千九百三十七年十一月六日の議定  
書により成り立つたる國が一千九百三十九年  
三月四日の議定書により、滿洲國が一千九百三十九  
年二月二十四日の議定書により、およびスペイン國が  
一千九百三十九年三月二十四日議定書により公報

しむ共意シタトヨナルに對する協定は  
大正十一年十一月二十五日より五年内有效  
せしも。

Dac. 155511  
第二條 本議定書は、本条第一項の如きに對する協定の  
原署名國としてのたりを在即國政府、ドイツ國政府  
かおびイタヤ王國政府の勧誘により右協定に  
参加せしる諸國はての公署加宣言を文書とし  
以て、ドイツ國政府に通達せし。ドイツ國政府は  
これを公使館その他締約國政府に通達すべし。  
右公署がけに由國政府本公署加宣言を文書とし  
しに三月より效力を生ずべし。

### 第三條

本議定書は日本文、ドイツ文、おびイタヤ文と以て  
作成せられ、その各本文とて正文とする。本議定書  
は四者共の間より解釈せしるべし。

締約國は第二條規定する五年の期自滿後  
當か時刻にあづ爾後に行ける干々協力の能様につ  
て解を遂げし本議定書とて干々は各本國政府  
正當の手續を経て本議定書の四者共印せり

1

Doc. 1552 Item 59

次官之外務大臣就回答案

陸玉音

條三書通序六合流之以示盟會。係此首題，併公畢某三書通會第十一。三號，盟會三封，陸西晉第十二號，以示回答七如，面會人。三號，靈祝，方會十二。序牌三種，乙公九丁，人許可也。凡針十九行，一端兩國合使，宛同俗，相誠度。

陸王錄卷二三十六

昭和七年七月二日

doc/552.htm 57

No.2

臺草第廿四三号

昭和十七年六月二十五日

第三普通第六八六號

陸軍次官殿

太佐、金見許可事請開件

瑞西國公使代理者

外務次官

本件開今般在京瑞西國公使の、宗國政府希望  
一千九百一十九年十月廿二日、取扱ノ関スル條約第八六條  
第三項ニ基キ同公使、指定スルヤ代理者、五會人無シニ  
不在普通寄宿所、以テハラバ大佐ト會談スルヲ  
許可セラバ、當日申越、タヒ處委細別添譯文ニシテ  
承上右對人ル賣省、意願向御、回示相應便

Doc 1552 Item 57

No. 3

六月十八日附東鄉外務大臣宛在京瑞西  
公使來翰(OC. 1. 2. 7-10)譯文  
以書翰啓上致候陳者據三度次，拙翰<sup>ヨシテ</sup>御通報  
致置キハ心懃<sup>モニ</sup>、訪問於中千九百二十九年七月二十七日得  
虜條約案八十六條第二百、實施方ニ關シ本國政府ヨリ  
電報ニ依レバ米國政府ハ本使が善通寺守<sup>トシマサ</sup>虜收容所  
ノツヅミラシ大佐ト立會人ヲ文へ入ニシ會議不ル、許  
可ヲ得ルトヲ布<sup>ス</sup>望<sup>ム</sup>居<sup>リ</sup>日本通報申上候  
本使ハ条件要請ヲ開<sup>ス</sup>保官廳ニ移牒<sup>ス</sup>日本政府が文ヲ  
受<sup>ク</sup>諾<sup>ス</sup>ルモナリヤ否ヤ<sup>ヲ</sup>請回報相成<sup>ラバ</sup>幸甚ト存入ル  
次第ニ座候  
米國政府ト<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>右要請、蒙<sup>ス</sup>諾セラシタニ場合本使<sup>ノ</sup>代  
理<sup>ノ</sup>が右訪問<sup>ヲ</sup>行<sup>フ</sup>モ善文<sup>ノ</sup>之無キモト思料致候  
本使ハ貿<sup>ト</sup>大臣ニ向<sup>ク</sup>テ深甚<sup>モニ</sup>敬意<sup>ヲ</sup>表<sup>シ</sup>候 敬具

國松根宗節常第一五二五入流  
證明書

證明

余中西足立音訣 Sadaoishi NAKANISHI / 余下記資格於即日本

佐傳情款向次長以下曰本政府公的關係在七十以下並該官吏

予余外奉添門記即成十九年正月廿九日主  
事部和合事附下記題名即付廣視察司開又曰本俗廣情報局

通信郵本總文書保當仕合付下記證明人

余更添附記餘反文書由本政府公文書十八件並右下記名稱省  
六部向公武書類交綴一部付下記證明(芳子ニハ留番子又ハ引用其他  
公書類交綴於該文書成規所存公云名稱モ特記云)付廣情報局

十九百四十七年八月廿七日三

在者、公的資格 日本作爲情報局次長  
當該官吏署名標 5. 中西 S. NAKANISHI /署名捺印  
東京於署尾 證明人 外子ヲ / 110 11D / 姓名

公或入牛之深乙山 證明

余中西二十一年八月廿三日余聯合  
最高指揮官總司令部關係付下記並該題名文書余  
務官本政府上記署名官吏ノ入付三十日付捺印證明又

十九百四七年八月廿三日

東京於署尾

氏名標 工少佐 W. T. M. ERIC W. FLEISHER

在者、公的資格 調查官 I. P.

證人 付六甲 / 2. O. H. E. /署尾

步兵中尉 A. G. G. F. E. /軍令部軍務局

外務省

TOKYO GAZETTE 一九三四年十一月三日

三月号(官四三七頁至四四頁)三、本文

外務大臣東郷成徳氏  
宣傳力更重於米袋貿易、基地の空氣、經濟之發  
展、國庫之擴充と興重、大業が運行に進むる爲めに、  
時ニ當り諸賢が輒々申述べる事、其上合意  
する所アリ。

先機会に於セテ、先ソシテ一風前事、不見得  
皇軍將兵ニ對し更ニ成功、武道于日本ノ戰體育  
ニ對し手心ヨリ敬也、吾ノ誠至深ニテ又、餘事  
亦、戰域ニテ手言語體育教化、事外、實外、  
同體諸君ニ對し敬意ト同情、合子也、勿論事  
所此ナキアリ。

歌劍修生宣傳三均今後今世界、大部分ノ事  
セ、一應鐵未竟ア以ニ完遂ヲ期シ現ニ當  
ニ邁進シテ大東亜戰事、二鶴山日本ノ國、合  
乎共立堂、此向真、實備、以、此、事、三  
千、文、

return to library 371  
do not destroy

49

155-5-L

言在它方、頃至、解放也、興亡、米英、現導者  
氣入モ半八十ナリマス、併シアカツヒ、復興  
トセマサト拘ム久、重更、解放也、興亡、以テ本  
體的使命ナリト確信シ此大業、實ニ邁進シ  
エキマリマス、或ガ尊承、ニ唐成セシタノ御多幸々  
歎異辰、驟現セシ居ニ通ニ大義也分、惣上手武  
秀也ナリマス。

既而議會於予說明シタ所ト大ニ主戰事  
利己主義、擴取領土擴張依リ奉セラル米英、世  
界割據打倒ヲ目的トモナリテ、蓋々全衆之  
解放及世界ノ道化計略、是ハ勿論、然事不  
入。

從之海洲國攻向支那國天朝而二十八本  
東以我立場ヲ能リ理解シ當初ヨリ日本積極的  
協力を得バクテヤア此間御守セバ我國ニ對  
諸般の協力與へ奉リテヤアス 今後ノ事勢  
又直ニ泰國王亦某本泰ニ謀共ニ至ニ達  
鷲下、獨我名其史籍に於給シテ之

155-1

言生モナリ東亞、解放並ヘ興進ノ米英、現時、専  
氣又モナハナナリマス。唯ソラ法、彼等、少  
ムト好テサルト拘ムス、東亞、解放並ヘ興進ニテ、  
歷史的使命ナリト確信シテ、大業、實現、應進シ、  
已ナリマス。我が軍隊、庫成セシタ、被多赫日、  
數累、敵リ麤瑰セシ事、通リ、大義、為分、將士、我  
等心ナリマス。

既而議會、於テ説明シテ、固、一大、一戰爭、  
利己主義、擴取、領土擴張、依リ、創立セシム、米英、世  
界制覇、打倒、目的トニテ、モナリテ、アス、其、全秉、  
解放及世界ヲ頂心、新狀、行、是、今也、戰爭、ナリ  
ア。

從而滿洲國政府、支那國民、商、士、八、本、數、  
重、我、立場、ヲ能ク理辯、シ當初、ヨリ日本、頑極、之  
協力、テ、參、シテ、ナリ。此間、帝、モ、本、國、對、  
諸、最、強、勢、力、與、人、共、ノリ、ナリマス。今、人、子、勲、榮、  
ノ、名、直、ニ、泰、國、モ、亦、其、大、義、認、識、不、立、往、  
總、下、兩、派、名、其、榮、力、其、命、不、立、往、

帝國ト俱戦争參如ノ次ノ立ナリス。十一

1555年、泰國ハ帝國ト同盟條約ヲ締結致シテ日本  
政府ハ泰國政府首腦者、慶太也取締ニ付レ故ニ是  
ニ上共ニ彼等、建設的努力ニ付レテ私ハ帝國、十分  
同情ト支持ト誓モナリス。

現ニ兩國同協カハ尊々當セレシ、又実情ニアリス  
曰、独伊、結合が益々固キヲ如ヘンモノハ諸賢、既  
御承知、通ナリス。同盟三國向、緊密ニ協力ハ今  
乎外文経済其他、分野ニ於ニ悉く具体化シ、アリ  
ナリス。米實が如何ニ日独伊ノ其、盟邦諸國、雖同  
三狂奔致ニシテ、絶対ニ心安謀、餘地ハ無イ、ナリ  
マ久也。軸諸國、鐵壁、團結ハ米英が單ニ名目上、存  
在ニ過サル諸亡命政府ヲ駆逐、未だ出来タ所謂聯  
合國陣營、大下其、類ノ異ニナリス。斯ク  
如ク友邦諸國、協力ハ戰爭遂行上、特南方諸地  
域ニ於日本、政黨廢止上至大貢獻ヲ爲シ、アリテ  
ナリス。

日本ソシテ、聯邦ト關係ハ其、何等變化ナリ

「アリス、兩國國文ハ依然中立條約ニ規制セラル」  
居テアリス、シガシト解神（米英）；話合ニ、  
「是トニ傳合ニテチ種々ニ風説、右、中立條約ノ  
規制セラリヤ」現ニ、日蘇兩國關係ハ何等影響、  
アリサ著ハ無イ、アリス。

日本ハ南洋及歐洲ニ於テ只、中國トハ能ニ限リ  
支那商標ヲ維持テ行ク者アリス、東洋諸國ガアリ也  
「謀議ニ乘セラル」事ナク日本ニ對レ敵對乃至ハ非友誼  
能シ度ヲ保テ限リ武力ハ十分ニ其立場ヲ尊重ス、  
用意ヲ有ヘンモアリス。然ニ日本政府ハ目下兩權争  
リテシヤ否口會議ニ對テ、深甚也注意ヲ拂フ事ニ  
あリアリス。

帝國ガ以テ敵人を人地ナシ、英米、全世界ヲ制  
覇セント心野望すアリス。米英ハ自己利益  
為ニハ三國ヲ犠牲ニシテ事ヲ單に所が無カタリ、アリ  
ス。斯ニ事例ハ全世界ノ如ク多數ニ上  
シ、故擧ニ星奉次也アリス。余テ何ノ國も最早  
止上英米宗謀、犠牲ト止ムハ想像心得セリ

山アリス

日本ハ蘭領東印度、民衆ニ對シハ些々、敵意モ抱ケテ、  
無イニアリス。然レバ蘭領東印度ハ不幸ニ王米英、于先  
トヒテ己レノ不幸ヲ招クガ如キ事ハ未タ、意圖ニ背ク事甚  
シキ次ハアツアリス。

然ルニ米英、蘭重慶ハ相謀リテ蘭領東印度ヲ其、軍  
事基地トシ、蘭領東印度自身又黙考ハ敵對行焉、一  
ニ此ニ至リテハ故ニ英國ハ之ニ對シ戰斗行焉ヲ開始ス、  
騒動キニ立候タリス。

重慶ニ於テ八木ダ若干、米支候分子ガ存在スルアリ、  
又併シハ銀浦モ亦金屬重共同、使命ニ恩ニ致シ  
系、面目ニ立テソリ重慶ニ於テ新秩序建設ニ努力シ未  
タ日、處ヨリ也ア信念モナリス。

今ノ舉事ノ目的即干大東亜共栄圏建設ハ我が帝  
國肇國ノ精神ニ渊源ニ上共ニ大東亜諸民族、共同、  
皇帝及使命ニ立脚スルアリス。カシヘ故ニ東亜  
協衡ノ爲ニ當對不可少也諸地域ハ日本日ア之ヲ把握  
矣ハ全リ當然アリス。從來米英が領有シ来し。

諸地域が各自其民族の傳統の如きをもつてゐる事は、他に  
足らず本戰爭は主義之點で亦然である事に入  
斯也根本理念に基く大東亜共済合意書の如く  
「尊重」所謂優秀者下の本質的二類の由りて日本國  
事ナリス。然れど指導者が本戰爭の意下の言葉言  
説明シテトドケ如キハ幾等か今猶存する。即ちノア共  
合國の觀念及方支域ヲ一步も出でずして不運  
ナリス。又日本上岸人敵國側に活潑な日本人三戰士  
夢想ナセズ又日本ニシテ漸次戰事ノ圓滿なる所處  
有在ナシナリス。更ニ日本八事ノ爲主排他的  
動機取リ本戰爭ヲ遂行せんとする所ナリテ西  
共済合意も亦排他的或は排外主義的立場を擧  
エラリナリス。從テ右天皇御内閣の御訓より  
「經濟實業」如キモ此共済合意設立展開二命  
密上セキハ言ヲ傳タヌナリス  
今次戰事目的凡て大東亜共済合意書の如き  
ノメハ東亞諸民族、指導的立場の如きの國民  
自弓、食弓、視野下の開拓以て人民幸福の爲め

上級セ認識ハ桂ノ事火早國内問題ノ各般ニ  
就テ至ニ命ニ相應スル頗極の態度ニ出ジト共ニ  
等各民族、期待ニ對ニテ之制ヲ十分ナラ期スナ  
リマス。斯クテ我等、責務ハ愈々重大ナリツア  
ルテアリマス。

其故ニ我國民ハ一体ナリ武事ノ進路ニ横心凡ル陣  
闘ヲ克服シ、偉業ヲ完遂セキアリマテ斯クテコソ  
我等が聖代ニ生リ宣ケ、且我等ノ前ニ歸リ被ケラシマ  
未嘗有、國皇承展ヲ目睹シ、特權ニ絶スモノ、ナコトヲ  
私ハ信じ次第アリマス。